

ポスター | 1-20 その他

ポスター

一般心臓病学①

座長:羽根田 紀幸 (どれみクリニック)

Thu. Jul 16, 2015 4:50 PM - 5:26 PM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

I-P-001~I-P-006

所属正式名称: 羽根田紀幸(どれみクリニック 小児科)

[I-P-004] 当院における純型肺動脈閉鎖の治療成績とカテーテル治療の役割

○佐々木 赳¹, 村上 洋介¹, 中村 香絵¹, 藤野 光洋¹, 川崎 有希¹, 江原 英治¹, 吉田 修一郎², 吉田 葉子², 鈴木 嗣敏², 石丸 和彦³, 西垣 恭一³ (1.大阪市立総合医療センター 小児循環器内科, 2.大阪市立総合医療センター 小児不整脈科, 3.大阪市立総合医療センター 小児心臓血管外科)

Keywords: 純型肺動脈閉鎖, カテーテル治療, 類洞交通

背景: 純型肺動脈閉鎖(PAIVS)は二心室修復(BVR)や Fontan型修復(UVR)に到達するまでに手術やカテーテルインターベンション(CI)を複数回要するものがある。目的: 当院の PAIVSの治療成績を振り返り、CIの役割を検討する。対象: 2000年1月以降に初回心カテを実施した PAIVS15例。出生体重1612~3505g(中央値2543g)結果: (1)最終治療方針は BVR 6例、UVR 9例。出生時 TVDは BVR 76~110%(中央値91)(TV z score -1.2~0.6、中央値-0.5)、UVR 29%~66%(中央値44)(TV z score -6.6~-1.9、中央値-4.3)、初回心カテ時右室拡張末期容積(RVEDV)は BVR 52~133%(中央値94)、UVR 12%~52%(中央値29)。UVR全例で類洞交通(SC)がみられた。(2)BVR群の初回治療は経皮的肺動脈弁形成術(PTPV)2例(ワイヤ穿孔1, RFワイヤ穿孔1)、Brock手術4例。Brock後に PTPV追加2例。Brock後に BT、PTA、コイル塞栓術追加1例。死亡1例(Brock後)。術後経過観察期間0.5~14.8年(中央値6.5)。治療後の肺動脈弁圧較差4~35mmHg(中央値27)、逆流は軽度まで。(3)UVR群: Fontan到達7例、PLE発症し take down 1例、Fontan待機中1例。TVD 66%あり RV overhaul 後に UVRの方針となったもの1例。Fontan到達までの手術回数3~7回、5例で CI施行 (PTA 4例に計8回、コイル塞栓術2例に計3回)。1例は BDG術後の難治性胸水貯留例で、肺動脈に対して計5回の PTAを施行し PAI 110から231まで改善し Fontanに到達した。死亡なし。結語: BVR群は手術、CIの組み合わせにより経過良好であった。RFワイヤ使用により初回治療の安全性がより向上すると思われた。UVR群における肺動脈狭窄、肺動脈低形成には積極的な CIの介入が有用であった。